

第4次総合計画 総括シート

大綱	安全なくらしと都市基盤の整備
----	----------------

1. 施策別の達成状況

施策目標		達成状況 (...目標を超えて達成、 ...目標どおり達成、 ...一部の目標が未達成)	
-1	防災対策、防火対策 (総務部)	主な実績と評価	ハザードマップの作成、住民への緊急伝達手段の確保とともに、自主防災組織の設立促進、消防団の施設・設備整備について取組んだ。公助(行政等)には限界があり、自主防災・防火活動との連携が不可欠である。地域防災力を示す自主防災組織率は92.6%(H26.8月末)となり、市内のほとんどの地域で防災組設が設置されている。
		課題と今後の対応	地域防災体制の充実のため、自主防災組織の活発な活動、消防団との連携による地域防災体制の充実が課題。引続き、自主防災組織への支援を継続するとともに、圏域消防組合と連携し、消防団が自主防災組織の訓練で指導を行うなど相互に協力できる体制づくりを検討する。
-2	防犯対策、交通安全対策 (環境福祉部)	主な実績と評価	市民の安全で安心な生活を確保するため、交通安全対策協議会や安全・安心まちづくり推進協議会と協働して、防犯対策・交通安全対策に取組み、犯罪件数・交通事故件数の減少につながった。
		課題と今後の対応	市民の被害を未然に防ぐためにも、防犯・交通安全の地道な啓発活動が必要である。
-3	計画的なまちづくり、居住環境の整備、公園・緑地の整備 (都市建設部)	主な実績と評価	JR津山駅北口の国道拡幅に合わせた周辺整備では、駅前広場や観光センターの整備に着手し、井口公園の整備では、防災機能を有する避難場所としても整備し、城東・城西地区の整備では、住環境整備と歴史的景観保全に配慮し、国によって重要伝統的建造物群保存地区に選定されるなど、単に市民の利便性の向上のみならず、観光やまちづくりなどの観点からも整備することに努めた。
		課題と今後の対応	JR津山駅北口の整備にあたっては、歩行者が駅の南北を自由に通行できるようにするなど、駅の利便性・拠点性を高められるよう検討する。
-4	道路網の整備、公共交通の充実 (都市建設部、産業経済部)	主な実績と評価	主要な路線を計画的に整備し、概ね目標を達成した。(大谷一宮線、総社川崎線林田川崎工区、川崎八出線、東西橋線、知和青柳線、西上山形線、光実工門線、戸脇中央線、中北線など)公共交通については、「効率的な路線編成により、維持継続できる交通体系とする」ことを基本方針とし、重複路線の解消等の交通体系の再編に取組み、路線によっては増加が見られた。
		課題と今後の対応	総社川崎線の早期事業完了を目指すとともに、老朽化する道路ストックの点検整備を今後積極的に進め、安全な道路網整備に努める。公共交通については、地域の交通需要を見極め、バス・タクシーなど公共交通機関等と連携しながら、地域に合った交通体系を検討する。

2. 施策別の代表的な成果指標の達成度

-1	自主防災組織の数 (~H23)、自主防災組織率(H24~) (総務部)	指標の説明	町内会などが母体となって、地域の防災活動を自主的に行っている組織の数									
		指標の推移										
			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		目標値	/	/	60団体	/	/	85団体	/	/	/	83.0%
		実績値	37団体	44団体	56団体	62団体	69団体	75団体	55.9%	86.8%	/	/
達成率	61.7%	73.3%	93.3%	72.9%	81.2%	88.2%	67.3%	104.6%	/	/		
		達成状況の評価	広報活動や出前講座による地域自主防災組織に関する啓発活動に加え、組織活動事業費助成制度を新設し、組織の設立促進と育成強化を図った。平成26年8月末時点で92.6%となり、市民の防災意識は非常に高まっていると評価している。									
-2	自主防犯組織の数 (環境福祉部)	指標の説明	犯罪のないまちづくりを進めるために各地域で自主的に設立された防犯組織の数									
		指標の推移										
			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		目標値	/	/	80団体	/	/	120団体	/	/	/	160団体
		実績値	68団体	79団体	92団体	99団体	106団体	112団体	85団体	155団体	/	/
達成率	85.0%	98.8%	115.0%	82.5%	88.3%	93.3%	53.1%	96.9%	/	/		
		達成状況の評価	自主防災・防犯組織のほかに、青色防犯パトロール隊が結成され活動しており、市民による自主的な防犯活動団体が増加し、成果を上げている。									
-2	刑法犯罪発生件数 (環境福祉部)	指標の説明	防犯活動の成果を検証するための指標として、市内の犯罪発生件数の推移を把握するもの									
		指標の推移										
			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		目標値	/	/	1,670件	/	/	1,670件	/	/	/	900件
		実績値	2,164件	1,715件	1,774件	1,518件	1,352件	1,244件	1,256件	1,082件	/	/
達成率	70.4%	97.3%	93.8%	109.1%	119.0%	125.5%	60.4%	79.8%	/	/		
		達成状況の評価	地域の自主的な防犯団体の活動数の増加もあって、犯罪発生件数が減少している。									
-2	交通事故発生件数 (環境福祉部)	指標の説明	交通安全対策活動の成果を検証するための指標として、交通事故発生件数の推移を把握するもの									
		指標の推移										
			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		目標値	/	/	1,050件	/	/	900件	/	/	/	650件
		実績値	1,105件	1,091件	964件	900件	840件	774件	651件	656件	/	/
達成率	94.8%	96.1%	108.2%	100.0%	106.7%	114.0%	99.8%	99.1%	/	/		
		達成状況の評価	警察が実施する取組はもちろんのこと、事故多発地点の道路改良や、子どもや高齢者に対する交通安全教育などの取組みもあり、年次的に交通事故の発生件数は減少している。									

- 3	町並保存(修景等)建造物数(累計)(都市建設部)	指標の説明		城東地区における伝統的建造物等の修理・修景事業の実施件数								
		指標の推移										
		H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
		目標値										18件
実績値							1件	3件				
達成率							5.6%	16.7%				
達成状況の評価		平成25年8月に城東地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことにより、平成26年度からは国の助成制度を活用した修理修景の取組みがスタートした。このことにより、地元の町並景観の保存活用に対する意識、意欲が高まり、修理修景の実施件数の伸びにつながっている。										

3. 施策別の代表的な主要事業の評価(平成18年度～25年度は実績、平成26年度～27年度は参考値)

No.	事業の説明	前期	中期	後期	事業の評価	今後の課題(事業継続中の場合に記入)			
							H18	H21	H24
							H19	H22	H25
							H20	H23	H26
- 1	消防署庁舎(西署・東署)建設事業(総務部)				統廃合の結果、これまでの11署所から9署所に集約され、人員及び資機材の効率的運用と有効活用が可能となった。併せて救急業務高度化として、ドクターカーの本格運用(平日日中運用)が開始されると共に救急救命士の署所配置率が向上した。	ドクターカーの運用を円滑に行い、資材機材の管理や運用面、施設面での課題がある。			
地域区分	全市	事業費	241,971千円						
- 2	防犯灯設置補助事業(環境福祉部)				犯罪抑止につながる防犯灯を設置することで、地域の安全・安心なまちづくりを推進できた。	町内会の防犯灯設置要望は多く、事業継続を行う。防犯カメラも犯罪防止効果が高く、補助事業を創設する。			
地域区分	全市	事業費	21,788千円						
- 3	鶴山公園景観整備事業(都市建設部)				動物園として使用していた園舎の解体撤去や、公園の法面等を覆っていた雑木の伐採などを行い、津山城跡のかつての景観を復元した。また、桜の名所として維持するため、老木の伐採と補植に取り組んでいる。	これまで、景観に影響を及ぼす施設等の撤去を中心に取組んできたが、今後は桜の維持管理等、魅力向上に資する取組みに注力したい。			
地域区分	津山	事業費	60,627千円						
- 3	津山駅周辺整備事業(都市建設部)				直接買収方式により平成24年度から津山駅周辺整備に着手した。平成28年度末完成を目指し、平成26年度に北口広場の工事に着手した。平成27年度は(仮称)観光センターの工事に着手する予定である。	今後、駅の南北を横断する歩行者通路について検討する。			
地域区分	津山	事業費	1,368,158千円						
- 3	城東・城西地区整備事業(都市建設部)				従前の取組みに加え、国による城東地区の重要伝統的建造物群保存地区選定、城西地区の本源寺の国重要文化財指定、作州絣工芸館開設などにより、来訪者が増加している。引続き、歴史まちづくりを進め、地域活性化、観光資源としての活用を図る。	当地域において歴史まちづくりに対する意識が高まっており、この機を逃さず集中的に取組むことで、早期、かつ確実に効果を生み出す必要がある。			
地域区分	津山	事業費	433,451千円						
- 4	道路整備事業(農道・林道、施設整備等)による関連道路の整備は除く(都市建設部)				大谷一宮線(平成24年3月全面開通) ・総社川崎線(林田川崎工区平成21年3月開通) ・河辺高野山西線(平成23年度～)	大谷一宮線が全線開通し、総社川崎線の林田川崎工区が完成したほか、懸案であった河辺高野山西線と林田小原線が県施工で着手された。市施工の総社川崎線の山北工区・沼林田工区も進捗を図っており、他の事業も含め、概ね計画どおり事業を推進した。	・中環状道路として位置づけた総社川崎線の早期完成。 ・県施工の河辺高野山西線、林田小原線の早期完成に向けた事業調整。		
地域区分	津山	事業費	4,221,256千円						
- 4	道路整備事業(農道・林道、施設整備等)による関連道路の整備は除く(都市建設部)				東西橋線(平成18年度～20年度) ・知和青柳線(平成18年度～27年度)	東西橋線は平成20年度に完了し、知和青柳線は平成27年度に完了する見込み。他に西原線は平成20年度、貝尾線は平成21年度に完了しており、計画どおり事業実施した。			
地域区分	加茂	事業費	534,736千円						
- 4	道路整備事業(農道・林道、施設整備等)による関連道路の整備は除く(都市建設部)				西上山形線(平成18年度～26年度) ・光実工門線(平成19年度～22年度)	合併特例債事業の光実工門線、西上山形線が完了した他、大岩立川線、坂上原線についても、それぞれ平成18年度、24年度に完了しており、概ね計画どおり事業を実施した。今後は、工門市場線の整備を検討する。			
地域区分	勝北	事業費	641,137千円						
- 4	道路整備事業(農道・林道、施設整備等)による関連道路の整備は除く(都市建設部)				戸脇中央線(平成18年度～19年度) ・中北線(平成19年度～21年度) ・貴布祢神社公会堂線(平成23年度～25年度) ・青木線(平成26年度～27年度)	戸脇中央線は平成19年度に、中北線は平成21年度に完了するなど、他の7事業も含め計画どおり事業実施した。			
地域区分	久米	事業費	236,996千円						